

安心ネットづくり促進協議会  
2018年度研究発表会

2019.2.27

# ネット教育の推進に向けて 現場教員の意欲と関心を高め負担を軽減する 教師教育コンテンツの構想と実装への試み

---

ハツ塚 一郎(熊本大学)

- 
- 1 着想の背景
  - 2 コンテンツの構想
    - ①歴史教育
    - ②メディア心理
    - ③「ネットいじめ」
  - 3 実装への試み
  - 4 今後の展望と課題

# 1 着想の背景

---

- 児童生徒における情報端末とネット利用の急激な拡大
- トラブルの増大と、対応を求める一層の社会的な要請
- 企業からの実践的なコンテンツ提供や講師派遣も盛んに
- しかし、年に1～2回の短時間の講習には自ずと限界
- 児童生徒と日々身近に接する熟練した現場教師が、主体的かつ継続的にネット教育を展開することが必要

# 現状

---

- しかし、多忙を極める学校現場にとって困難な課題
- 経験豊富なベテラン教師であればあるほど
- 「自分の仕事ではない」「よくわからないので若手に任せる」
  
- 若手教師はネットに馴染みもあり、積極的な取り組みも
- しかし、研究にあてる時間や経験の不足
  
- ワンパターンな指導や、一方的な「禁止教育」に陥りがち

# 端緒

---

- 教職大学院の発足

(熊本大学大学院教育学研究科教職実践開発専攻)

- 「理論と実践の往還」

- 研究者教員と実務家教員によるチームティーチング

- 現職派遣大学院生との対話

- 現場の教師を支援し、力量の向上と負担の軽減を目指す方向性

- 研究者としてどのように貢献できるか

# 理論的背景

---

- アクションリサーチ

現場を念頭に置いた実践的研究

「よき理論ほど実践的なものはない」(クルト・レヴィン)

- 質的心理学

少数事例への探索的・記述的検討と、対話的な実践

- メディア論

メディア史・メディア論の知見を教育現場へ

## 2 コンテンツの構想

---

### ①歴史教育

既存の教育実践活動との連動、そして社会認識の転換へ

### ②メディア心理

児童生徒の心性に対する共感的な理解の一助に

### ③「ネットいじめ」理解

事象への目配りと背景への洞察

# ①歴史教育

---

- 既存の教育実践活動との連動、そして社会認識の転換へ
- あえて現代のネット事象から離れ、その源流、歴史的背景に遡ることを通して、ネット教育の意義と必要性に対する理解を深める
- 日々の教育活動との連続性を意識し、負担感を軽減するとともに、
- 社会認識を転換し、教師自身の学ぶ意欲を喚起する



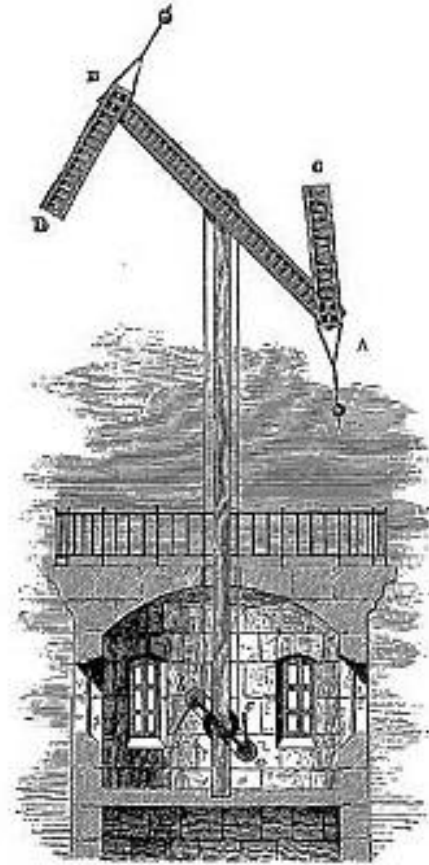
## a. 導入

---

- その前に、「そもそもメディアとは何か？」
- マクルーハンの論考をもとにした提示
  
- メディアとは「つなぐもの」である
- 「つなぐ」ことを通して、メディアは人々の感覚を変容させる
  
- 橋も鉄道もメディア～ネットの時代に始まったことではない



# 腕木通信



## b. 幕末から明治期

---

### ●近代化～メディア化と感覚の変容

1854 ペリー艦隊再来航(横浜沖)将軍への献上品の一部

ミニチュア蒸気機関車1台、電信機2組(電池数個、電線3マイル)、農機具一揃、銅張り救命艇一艘、オーデュボン『アメリカ禽獣誌』全九冊、『合衆国議年会報』4冊、『灯台報告』二冊、『合衆国沿岸図集』一組、バンクcroft『合衆国史』全四冊、ウイスキー一樽、望遠鏡、鉄板ストーブ、陸軍用ピストル二十挺、ライフル銃五挺、南京錠付き郵便袋二個

1867(慶応二)年十二月、幕府イギリス派遣留学生の一行は、スエズからカイロまで蒸気車に乗るのだが、川路太郎は「英航日録」に記す。〈近傍の山などは布の縞の如く見とむる能わず〉

いずれも 武田信明『三四郎の乗った汽車』教育出版 より

予見されていたメディア化 福沢諭吉『西洋事情』(1866～)口絵



[https://www.kosho.or.jp/products/detail.php?product\\_id=77799393](https://www.kosho.or.jp/products/detail.php?product_id=77799393)



## c. 電話発達史

---

### ●普及速度を考えるための資料年表(一部)

1871 長崎-上海、長崎-ウラジオストク海底電信線開設

1889 電話開通 東京-熱海間

1990 「日本最初の電話帳」東京・横浜 計197件

1913 電話加入20万件突破

1943 電話加入108万件突破

...

1996 YahooJapanサービス開始、たまごっち ネット人口普及率3.3%

2016 ポケモンGo、熊本地震 ネット人口普及率83.5%

(『電話100年小史』日本電信電話株式会社広報部、総務省「情報通信白書」などを参照)



東京

(明治23年12月末現在)

電話番号	加入者名	電話番号	加入者名	電話番号	加入者名	電話番号	加入者名	電話番号	加入者名
1	東京府庁	44	小野義真	144	米国公使館	206	内国通運会社	249	若宮正音
2	逓信省電務局	45	矢野文雄	145	中外商業新報商況社	207	今井商店	250	藤摩治兵衛支店
3	司法省	46	森田文蔵	146	新聞用達会社	208	製帽会社	251	益田孝
4	大蔵省総務局	47	梅浦精一	147	毎日新聞社	209	鐘ヶ淵紡績会社工場	252	原亮三郎
5	文部省	48	三成社	148	時々新聞社	210	同事務所	253	小野金六
6	帝国博物館	49	三吉電機工場	149	時事新報社	211	古河熔銅所	254	市村藤吉
7	日報社	50	第九十五国立銀行	150	辻桑吉	212	古河市兵衛	255	岩崎久弥
8	大同新聞社	51	東京新報社	151	森岡昌純	213	三養社	256	同人
9	朝野新聞社	52	原田貞吉	152	清水湖之助	214	泷沢商店	257	中井支店
10	改進新聞社	53	田中工場	153	田中平八	215	実吉安純	258	敬業社
11	報知社	54	日就社	154	吉川泰二郎	216	高木兼寛	259	国文社
12	品川電燈会社	55	東京株式取引所	155	奥島万兵衛	217	東京慈恵医院	260	雨宮敬次郎
13	東京瓦斯会社	56	谷元道之	156	小林義雄	218	東京赤十字社病院	261	広告社
14	東京商工会	57	浅野純一郎	157	柿沼谷蔵	219	桜井郁二郎	262	鈴木由三郎
15	日本鉄道会社	58	逓信省管船局	158	泷沢栄一	220	櫻村清徳	263	前田富次郎
16	同 社	59	壬午銀行	159	大倉喜八郎	221	東京俱樂部	264	高木兼寛
17	北海道炭鉱鉄道会社支店	60	東京電話交換局技手	160	岩崎弥太郎	222	帝国ホテル	265	藤田四郎
18	秀英舎	61	東京電燈会社第五電燈局	161	平野富二	223	竹田屋	266	東京割引銀行
19	秀英舎工場	62	日本鑄鉄会社	162	内外用達会社	224	浜の家	267	長谷川武次郎
20	東京電燈会社	63	福山武	163	三井物産会社支店	225	花月樓	268	古河荷物取扱所
21	日本土木会社	64	東京毛糸紡績会社	164	ラスベ商会支店	226	ひさこ屋	269	金閣社
22	東京倉庫会社	65	同 出張店	165	伊理斯商会	227	惣業料理岡田屋		
23	東京湾汽船会社	66	東京郵便電信学校	166	石川島造船所	228	大谷金一郎		
24	同 出張所	67	東京米穀倉庫会社	167	日本郵船会社	229	喜谷市郎右衛門		
25	米商会所	68		168	同 東京支店	230	岩出惣兵衛		
26	東京海上保険会社	イ	(欠番)	169	同 解掛	231	中沢彦吉		
27	三井物産会社	100		170	同 荷掛掛	232	渡辺治右衛門		
28	丸善商社	101		171	急報社	233	岩崎弥之助		
29	日本銀行	イ	各電話所	172	刺賀商会	234	恒川新助		
30	第十五国立銀行	116		173	泷沢喜作	235	奥三郎兵衛		
31	第二十国立銀行	117	(欠番)	174	東京回米問屋市場	236	西村彦太郎		
32	第百十九国立銀行	118	東京電話交換局	175	都新聞社	237	岡田来吉		
33	銀行集会所	119	東京郵便電信局	176	プリンクリー	238	川崎銀行		
34	第一国立銀行	120		177	大隈重信	239	安田銀行		
35	第百国立銀行	イ	(欠番)	178	中尾久吉郎	240	田中銀行		
36	蜂須賀茂昭	136		179		241	半田庸太郎		
37	遠武秀行	137	増島六一郎	イ	(欠番)	242	第三十二国立銀行東京支店		
38	田中久重	138	マクドナルド	200		243	今村銀行		
39	沖電機工場	139	平沼八大郎	201	東京紡績会社	244	逓信大臣官房		
40	横井孝助	140	益田克徳	202	田村利七	245	農商務省		
41	同人支店	141	内務省	203	小室信夫	246	外務省		
42	好川保兵衛	142	内務大臣官邸	204	製紙会社	247	後藤象二郎		
43	奈良原繁	143	布哇国公使館	205	製紙分社	248	前島密		

電話交換加入申込期日表  
 明治廿二年十二月  
 二十三年一月三十一日迄  
 逓信省

『電話100年小史』 日本電信電話株式会社広報部



- 
- 最近になって急に始まったことではなく、明治以降、近代化の流れの中にビルトインされていた変化、その露頭としての現代のネット社会
  - 誰も経験したことのない甚大な変化の中で、否応なく意識にも感覚にも影響
  - 学校で教える基本的な内容と直結、「Tips(小ネタ)」として利用可

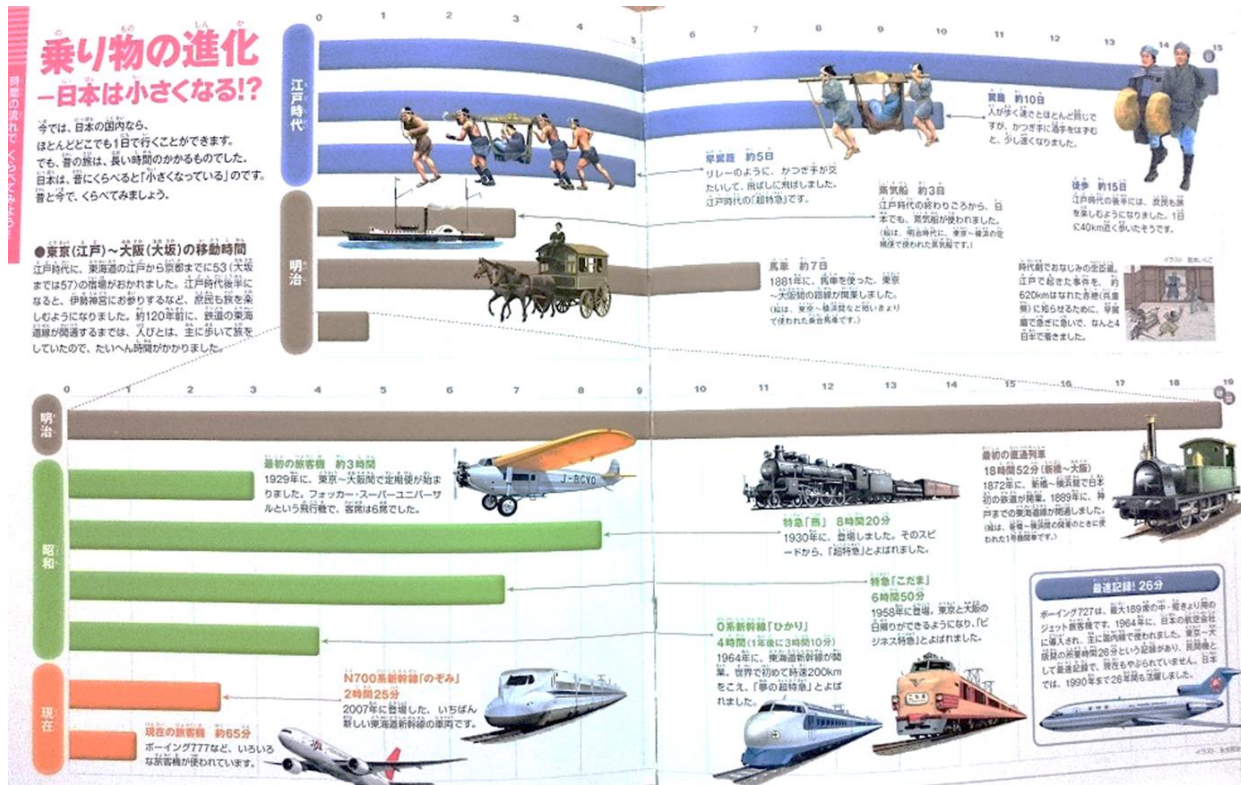
## ②メディア心理

---

- 児童生徒の心性に対する共感的な理解の一助に
- なぜ、スマホを手放せないのか？
- なぜ、ネットメディアに夢中になるのか？
- 歴史性から発展しつつ、メディアの哲学、社会学、心理学の論考を参照、現職教師向けに解説

# a. メディアがもたらすもの







## ● 鉄道メディアのもたらす変化



『小学館の図鑑NEO もっとくらべる図鑑』

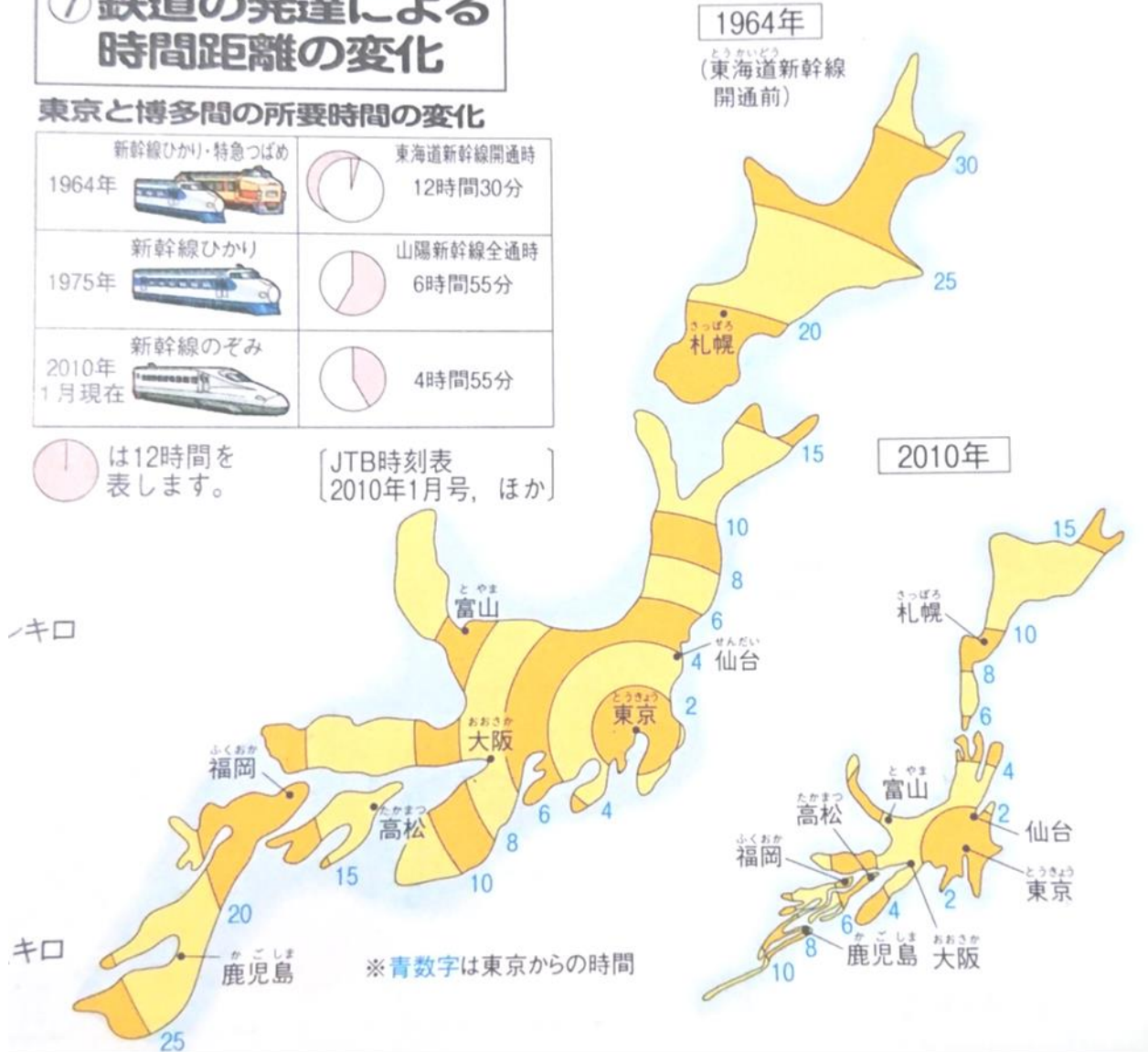
# ⑦ 鉄道の発達による 時間距離の変化

## 東京と博多間の所要時間の変化

1964年 新幹線ひかり・特急つばめ 	東海道新幹線開通時 12時間30分 
1975年 新幹線ひかり 	山陽新幹線全通時 6時間55分 
2010年 1月現在 新幹線のぞみ 	4時間55分 

 は12時間を表します。

[JTB時刻表  
2010年1月号, ほか]



“時間地図”  
『小学校総復習社会科地図帳初訂版』  
帝国書院

- 
- メディアが発展を続けるなら、時間地図は縮小を続け、理論的には点になってしまうだろう
  - すなわち、ゼロ時間での交通やコミュニケーションが近代の夢として求められ続けてきた
  - スマートフォンなどのネットメディアは、ゼロ時間でのやりとりを、すでに実現してしまっている
  - すでに実現してしまった「どこでもドア」。**スマホはドラえもんである**

## b. 社会学的変化

---

- 電話研究からの知見～電話の「設置場所」の変遷
- コミュニティ間の接続から、各戸の接続へ
- 玄関先から、家族各々の個室へ
- 個人で携帯し持ち運ぶものへ
  
- 個人化あるいは孤立化

## 黒電話の時代：玄関先に設置



<http://www.zenchin.com/renovation/2015/07/post-70.php>





NTT技術史料館



NTT歴史展示スクエア





## c. 哲学的＝心理学的含意

---

- 携帯端末を手にすることは、一個人がどこにでも遍在し、時空を超越して、居ながらに世界を一望できることを意味する

### 神のごとき全能感

- その一方、常に世界中から、不特定の誰かによってすべてを観察され、それどころか乗っ取られてしまう危険が常に随伴する

### 絶望的な不安感

- ふたつの感覚に常に引き裂かれる宿命

# 児童生徒理解への試み

---

- 「神のごとき全能感」と「絶望的な不安感」の共存がもたらすもの
- 大人をからかい、自身の有能感を証明する、悪意ある行動
- 不安から逃れるための依存的な利用
- 家族や友人よりも、ネット上の「誰か」のほうを絶対的に信頼
- .....子どもに限ったことではないという洞察へ

- 
- 教師自身が身近に経験してきたメディアの変化と発達を振り返り、討議を通してその意味を考察する
  - 児童生徒のネットをめぐる「問題行動」を、理解可能な現象として理解する
  - 子ども用図鑑や地図帳など、すでに身近にあって活用している教材が、ネット教育の素材ともなっている

## ③「ネットいじめ」理解

---

- 公表されているいくつかの「第三者委員会報告書」をもとに事例検討し、「ネットいじめ」の本質を考える

檀原市立中学校生徒に係る重大事態に関する調査委員会「調査報告書」(2015)

青森市いじめ防止対策審議会「報告書」(2018)

埼玉県立高等学校におけるいじめ重大事態に関する調査報告書(公表版)(2018)など

- 
- 深刻な「いじめ」事案において、SNSが大きく関与する割合が大きくなっている
  - グループ外しや、深刻な中傷の文言
  - ただし、いずれの事案も、普段のクラスや部活等における人間関係が発端であり、ネット上だけで「いじめ」は発生しない
  - その一方、対面上ではあり得ないほど極端に、SNSがトラブルを極大化しboostしてしまう

# 提起

---

- ことの本質は「ネットいじめ」ではなく、
- 「いじめ型ネット利用」なのではないか？
  
- 単純なネット悪者視の克服と、ネットの危険性への強い意識
- 「では、どのようなネット利用が望ましいのか」という問いへ
- 「〇〇型ネット利用」 何を充当するか

# 3 実装への試み

---

- 教職大学院における試行
- 複合科目「ネット教育コミュニケーション論」
  
- 院生との対話、院生同士（現職派遣院生とストレートマスター）の対話を重視
- 実務家教員の技術と発想から多くを学ぶ



## 集中講義形式 3日間、計15コマ

	1限	2限	3限	4限	5限
1日目	導入:フリー ディスカッション(司会)	講義 メディア史	講義 ネットラブル	ワークショップ ネットラブル ネット教材	ワークショップ ネットラブル ネット教材
2日目	講義 ネットいじめ	講義 ネットいじめ	ディベート ネット利用の 是非	模擬授業 準備	模擬授業 準備
3日目	模擬授業	模擬授業	模擬授業	総括討論 (司会)	レポート



# 模擬授業の一例



対面での謝罪と、SNSでの謝罪の違いを子どもとともに考える授業

「メディアはメッセージである」という洞察への接近

# 授業レポートから

---

- 教えることに筋が通った。ネット＝悪、禁止すべきものという単純な発想を克服。必要なのは、よきユーザーとなるための教育である
- 道徳教育、公民科教育などとの連続性を発見した。手持ちの材料経験を活用できると同時に、幅広い連携の必要性を強く認識
- ネットは子どもの居場所にもなっている。否定したり奪うのではなく、現実生活と日常との両立を
- 機器やネットがあることを前提に、普段の授業に積極的に取り入れていく発想の転換へ

# 4 今後の展望と課題

---

- 現職教員研修、学部生向け講義等での多角的な実践へ
- 既存教科とのさらなる連動の模索  
世界史的視点、言語教育、科学教育...
- ヴィジュアルライズと多メディア活用  
ex. 複雑な「ネットいじめ事案」の表現方法

- 
- 他面、伝統的な教育メディア（黒板、イラスト...）の有用性
  - 理論的整理～『教師のためのメディア論』へ  
既存研究のさらなる援用と、断片的事象の体系化
  - 教育言説の見直しと創出  
「ネットいじめ」ではなく、  
「いじめ型ネット利用」